

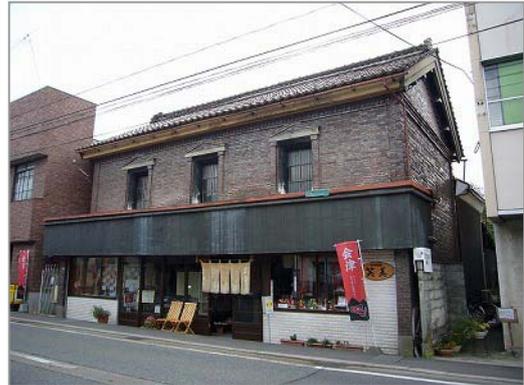
報道関係各位

2009年6月19日

アルミと“蔵”の「相利共生」が生み出す次世代社会の建築
『SUSアルミ共生建築 Competition』を開催
～9月30日(水)までデザインを募集～



SUS福島工場のアルミ建築



歴史的建築様式の“蔵”(会津若松市七日町)

+

アルミ製住宅・家具、建築構造材の製造販売を手がけるSUS株式会社(静岡県静岡市、代表取締役社長:石田保夫、www.sus.co.jp)ecoms(エコムス)グループはこのほど、持続可能な社会における建築分野の「相利共生^{*}」を考える『SUSアルミ共生建築Competition』を開催いたします。テーマは、“アルミと蔵”。環境循環型素材であるアルミニウムと、日本古来の建築様式である“蔵”とが相互に利益を有しながら共生する次世代社会の建築空間デザインを7月1日(水)から9月30日(水)まで募集します。

※相利共生・・・異種の生物が行動的・生理的な結びつきをもち、1カ所に生活し、相互に利益のある状態。ヤドカリとイソギンチャク、アリとアブラムシなど共生の一種。

アルミニウムは、「3R」(リデュース・リユース・リサイクル)に適しているほか、軽量ながら強度が高い、耐食性がよい、加工がしやすい、異素材との親和性が高いといった特長を持ち、環境循環型素材として建築・プロダクトの分野で利用が広がっています。SUSでは、アルミが建築構造材として認可された2002年より、“アルミを進化させる”をモットーに建築部材としてのアルミの研究に取り組み、公共の喫煙スペースなどを構築するアルミパッケージブースの販売やオールアルミ住宅の建設など、さまざまな用途・製品開発を行ってきました。

一方、伝統的な建築様式として日本の景観を形成し、古くから親しまれてきた“蔵”。漆喰などで仕上げられた独特の建築物は、重要な文化財として現在でも日本のいたる地域に残されています。その反面、生活様式の変化などにより、本来の機能的な役割は忘れられ、使われなくなったまま敷地の片隅に眠っている蔵も多く存在します。

今回開催する『SUSアルミ共生建築Competition』は、持続可能な社会の実現に向け、現在は使われていない古い建築物に新しい価値を付加し、未来へ残す試みです。永続的に利用可能な環境に優しい素材であるアルミと、朽ちつつある歴史的建築とを「相利共生」させることで、自然環境、文化、経済にとって無駄の少ないこれからの建築を考えます。

なお、本コンペティションの実施にあたり、テーマ対象となる“蔵”は、会津若松市の七日町通りに実在する“蔵”群を設定しました。審査は、北川原温氏(建築家・東京藝術大学教授)、洪川恵男氏(七日町通りまちなみ協議会会長)、飯嶋俊比古氏(構造家・飯島建築事務所代表)、石田保夫(SUS株式会社代表取締役社長)の4人の審査委員で行い、最優秀賞(1点、賞金100万円)、佳作(2点、賞金30万円)を選定いたします。

*コンペの詳細概要は次頁をご参照ください

【本リリースに関するお問い合わせ】

SUS株式会社広報担当: 小倉 / Tel: 054-361-0061 / e-mail : k-ogura@sus.co.jp

SUSアルミ共生建築Competition 実施概要

名 称: SUSアルミ共生建築Competition

募集テーマ: **アルミと“蔵”**

高度成長期より、地方の過疎化が人口流出によって進行しました。活力を失った地方では、長い年月をかけて人々の営みを刻み続けた民家、町家、蔵などが朽ちかけている風景を多く見かけます。近年、それらを修復、再生して、現代のライフスタイルに合わせて使いこなす事例も増えています。それらが多く存在する市町村では、リノベーションの核としてまちなみを整備し、まちおこしに取り組む地域も出現しています。

今回は、歴史的建築物とアルミニウムとの「相利共生建築」の提案を募集します。

提案の対象として、会津若松市七日町通りに面する敷地と、そこに建つ“蔵”群をモデルとして設定します。“蔵”に対して、古さと新しさ、重厚さと軽快さ、文化と科学など、対比的なアルミ部材やアルミ構築物・建築物を付加することによって、その保存にも配慮しつつ、新しい機能、用途を提案し、相利共生の建築空間をデザインしてください。アルミと“蔵”群との融合体が、七日町通りのまちなみの新たなアクセントとなり、まちおこしに寄与することも期待したいと思います。

なお今回の提案は、実現を前提としたものではありませんが、提案内容に併せ諸条件が整う場合、具体化する可能性があります。

応募資格: 日本国内在住の方であれば資格は問いません。グループでの応募の場合は、代表者が日本国内在住の方であることとします。

応募期間: 2009年7月1日(水)～9月30日(水) ※17時必着

提案条件: 応募提案においては、七日町通りに面するレンガ蔵と敷地内の3つの土蔵(土蔵のいずれか1つは敷地内で移動できる)を対象に修景、改築し、かつカリン、カキ、モミジの樹木は敷地内の移植も含め保存を原則とします。応募提案は、都市計画法などの関連法規、「七日町中央まちなみ協定(抜粋)」(詳細は<http://ecoms.sus.co.jp/saa2009/>をご参照ください)を考慮し、また駐車場は、敷地外の共用駐車場にて対応することとします。会津若松市七日町通りの視察、調査においては、周辺の住宅、店舗などへの十分な配慮をお願いします。

応募方法: 下記専用WEBサイトにある敷地、建物の現状図を参考に、配置図、平面図、立面図、断面図、透視図などを用いて設計意図を表現してください。それらをA2サイズの内紙2枚以内、片面横使いにまとめ、WEBサイトよりダウンロードし、必要事項の記入した応募用紙とともに提出してください。

WEBサイトURL: <http://ecoms.sus.co.jp/saa2009/>

審査委員: 北川原 温 (建築家・東京藝術大学教授／審査委員長)
洪川 恵男 (七日町通りまちなみ協議会会長)
飯嶋 俊比古 (構造家・飯島建築事務所代表)
石田 保夫 (SUS株式会社 代表取締役社長)

審査方法: 書類選考(10月中旬予定)

賞 典: 最優秀賞(1点) 賞金100万円 / 佳作(2点) 賞金30万円

結果発表: 審査結果は、受賞者に速やかに通知するほか、11月18日(予定)に上記のWEBサイトにて発表します。

応募先: 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-1-1 ORIKEN平河町ビル2F
SUS株式会社 広報チーム

主 催: SUS株式会社ecomsグループ
後 援: 七日町通りまちなみ協議会
協 力: AXIS、日本デザインコミッティー

SUSアルミ共生建築セミナー開催 参加者募集（無料）

2009年7月28日(火) 15:00～17:50（開場14:30）

会場：アクシスギャラリー（東京・六本木AXISビル4階）

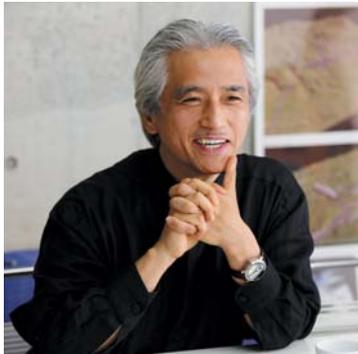
「SUSアルミ共生建築Competition」は、「異種の生物が行動的・生理的な結びつきをもち、1カ所に生活し、相互に利益のある状態」を意味する「相利共生」がキーワードです。同コンペティション審査委員の方々に、人間、自然、文化、経済、建築・開発に存在する「相利共生」を主題として、「歴史とイノベーション」、「建築とまちなみ」、「アルミ建築構造材と建築材料」などについて語っていただきます。

プログラム

14:30 開場

15:00 主催者挨拶

15:10 基調講演「デザイン:テクスチャーする、ストラクチャーする」北川原 温



北川原 温
建築家・東京藝術大学教授

ビッグパレットふくしま(日本建築学会賞作品賞)、中村キース・ヘリング美術館(村野藤吾賞)、岐阜県立森林文化アカデミー(ケネス・ブラウン環太平洋建築文化大賞、アルカシア賞ゴールドメダル、BCS賞ほか)などの作品で建築界の話題をさらっている北川原温氏。

革新的ともいえる造形力が注目されがちですが、素材や構造に対する深い造詣にも感嘆させられます。基調講演では、デザインを支える素材や構造について、そして原風景の1つであるとする蔵についても話を伺います。

15:50 質疑応答

16:00 休憩

16:10 審査委員4氏による座談会



北川原 温
建築家・東京藝術大学教授



洪川 恵男
七日町通りまちなみ協議会会長



飯嶋 俊比古
構造家・飯島建築事務所代表



石田 保夫
SUS株式会社 代表取締役社長

17:20 質疑応答

17:40 閉会挨拶

17:50 閉会

参加申し込み方法:

WEBサイト(<http://ecom.s.co.jp/saa2009/>)より申し込み用紙をダウンロードし、

FAX(03-3222-6172)にてお申し込みください。

折り返し入場券を送付いたします(先着順、定員:60名)